

鈴鹿 神崎川 赤坂谷～ツメカリ谷周回

2013年6月23日(日) 曇り時々小雨

メンバー L:磯部S(記)、ヤマメ、池田T、犬山、松野、大竹、岩倉、小池M

昨年に続き「沢登り好きを増やそう第一弾」として初級者コースであり、明るい溪相でエメラルドグリーンの淵を堪能できる鈴鹿の沢を選んだ。

前夜、三重県側の宇賀溪キャンプ場Pで仮眠。早朝、石樽トンネルを抜け滋賀県側に出て神崎川に向かう。浜松から2時間と近いのが良い。

国道を入渓点に向かって左折しようとする、しよっぱなから愕然、林道閉鎖だ。どうやら土砂崩れなど自然災害ではなく、神崎川に水遊びなどに来る人々のマナー違反など、利用する人間の問題らしい。寂しい限りだ。

林道手前の国道沿い池田キャンプ場のP(有料)に駐める。入渓点まで1時間林道を歩いた後、しっかりした踏み跡をたどって神崎川本流に下りる。

ここから上流に白い大岩群(ゴースト)を乗り越えていくと、すぐ左手に赤坂谷が姿を現す。



まさかの施錠・往復2時間の林道歩き



透明度の高い淵をへつる まだ入水に抵抗有り

きれいな淵を伴った小滝をいくつも越えていく。泳ごうと思えばいくらでも泳げるが、まだ幾分冷たく、体力を奪われてしまう。

ぐつとがまんして(リーダーだけかもしれないが)左右をへつる。

どこもたやすくお助けヒモさえ出番は無い。水量も適度で安全である。

1時間ほどで、やがてこの谷の核心、広く深い淵をともなったトイ状8mの斜滝だ。人気の沢だけあって先行パーティーが抜けるのを待つ。

大事をとってロープを固定するが、3級下程度の右岸クライミングだった。

滝身をステミングでシャワークライミングも思ったより楽で気持ち良い。

また足が着かない淵は泳がなくても、左をへつって行くこともできた。



核心 ザイルで安全確保 泳いで取り付く。10:10



流れに逆らって左岸をへつり、泳ぐ。
右岸上部に岩棚。10:45

続いてすぐ兩岸の立ったゴルジュだ。奥に10M滝をともない、淵の流れは速い。多くは右岸岩棚を渡って、落ち口近くからシャワークライミングで抜けたが、一部は楽しさを求めて左岸伝いに泳ぎ、滝壺手前で右岸に流されないように頑張って泳いでたどり着く。あとは滝見左をばんばんのシャワークライミングで登った。この日一番の爽快感だった。



新緑がきれい



夏だ！沢だ！！
シャワークライミングだ！！（大竹氏談）

プチドラマチックもここでほぼおしまい。あとはいろんな要素があり変化に富んで楽しいが、ひとつひとつの規模は小さく難しいところは無い。初心者には最高であろう。

長く美しい快適なナメが続き、一本取っていると、後ろから二人組遡行者追いついてきた。なんとびっくり元会員、片岡夫妻だった。

久しぶりの再会に喜び、ここから一緒に遡行する。



泳ぐ！泳ぐ！



ツメカリ谷へ尾根を乗っ越す

大きなチョックストーン滝を2つ過ぎて、谷が開けて北に曲がり始めた辺りで、南のツメカリ谷に下降路を求めて支尾根の小さな谷筋をつめる。

この入口には赤テープが着いていた。乗っ越すルートはいろいろあるようだが、どれもはっきりしたものではなく、北に南にとコンパス頼りだ。少々東にぶれたが、やがて小さな朴ノ木谷にぶつかり、それを下ってツメカリ谷に合流した。



エイヤ！ 下りのツメカリ谷は飛び込み大会となる



飛び込み病 伝染する

ツメカリ谷は赤坂谷よりグレードは低いいため、下ることもたやすい。こちらにも淵がたくさんあり、小滝は飛び込み大会となった。

最初は怖がっていても、泳ぐ快感に目覚め、積極的に飛び込むメンバーも出てきた。それがキツイ人は高巻いて懸垂でクリアするなど、いろんな手段があって面白い。



神崎川本流 泳ぎ、へつり、高巻きする自由



堰堤下で終了

神崎川本流に出会うと水量が増えて川幅も広がるが難しいところはない。ゆったりとルート選びを楽しみながら下る。赤坂谷出合い前の堰堤を右岸から乗り越えるとすぐ左岸の林道に上がる明瞭な道を見つけた。
(ちなみに堰堤左岸をはしごで上った先は、閉鎖されていた。)
途中から階段となり林道とぶつかり、駐車場までの長い距離を疲れた体を引きずって歩いた。
沢での一日の行動時間としては長かった。

う〜ん、噂通りの水遊び天国だ。毎年、通っても良いなあ。

■ルート図



<タイム> R421枉葉尾町池田キャンプ場P (7:35) - 入渓点 (8:30-8:50) - 赤坂谷出合い (8:55) - ツメカリ谷への分岐 (12:45) - ツメカリ谷出合い (13:50) - 神崎川出合い (15:40) - 堰堤 (17:10) - 林道 (17:30) - 池田キャンプ場P (18:45)

以上